

プレスリリース 2020年10月 ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ

IASSW/ICSW/IFSW¹

ダブリン世界会議 2018 で開始された協議の結果、国際ソーシャルワーク学校連盟、国際社会福祉協議会、国際ソーシャルワーカー連盟の指導者は、2020年10月1日に開催された三者会議の中で、「2020-2030年ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ」の枠組みと2020-2022年の第1テーマを採択した。

残りの4つのテーマを明確にするために、上記の国際機関は、パンデミックやその他の進展の影響を考察する時間を確保するために、2021年に協議を継続することを決定した。

グローバル・アジェンダに関するプロセスの最初の10年間は、ソーシャルワークと社会開発に統一的に取り組む焦点を示し、次の10年間の枠組みをさらに発展させるための基礎を築いた。

IASSW の会長であるアンナマリア・カンパニーニは次のように述べている。「IASSW は、新しいグローバルな社会契約を体現する包摂的な社会変容を共同構築するために、ソーシャルワークの養成校、ソーシャルワーク教育と研究を結びつけることによって、グローバル・アジェンダの次の段階へのパートナーシップの維持に取り組む。」

ICSW の会長であるエヴァ・ホルムバーク＝ヘルストレームは次のように述べている。「パンデミックは、今こそ持続可能な世界における公衆衛生と福祉のための新しい社会契約の時であることを私たちに示してくれた。グローバル・アジェンダは、このプロセスにおける私たちの中核となる貢献である。」

IFSW の会長であるシルヴァナ・マルティネスは次のように述べている。「過去10年間、グローバル・アジェンダは、ソーシャルワーク専門職を統一する力として機能してきた。それは、社会的・経済的平等、すべての人々の尊厳と価値の認識、持続可能なコミュニティと環境の促進、人間関係の重要性という原則に基づき行動するため、私たちを団結させてきた。第2の10年を迎えるにあたり、私たちの決意はこれらの原則に基づいている。長年のパートナーと新たなIFSWパートナーは、2020年から2030年の包括的な枠組みを「包摂的な社会変容の共同構築」とすることを確認している。この枠組みは、すべての人々が平等に扱われ、歴史とその未来の主役になれるような、新しい社会構築のビジョンである、世界で起こる重要な変化の必要性を認識している。2020年から2022年までの最初のテーマである

『ウブントゥ (Ubuntu) : 我々が存在するから、私も存在する』は、この枠組みの基礎を築くものである。これは、すべての人々の生活と未来が絡み合い、私たちの運命がつながっていることを認識する。この枠組みを立ち上げることで、私たちはすべてのコミュニティが社会的に公正な新しい世界を共同で構築するため、その役割を認識・遂行することを願い、次の10年間の行動に尽力する。」

ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ 2020-2030年に向けた枠組み

包摂的な社会変容の共同構築

グローバルに、各国そして地域において、ソーシャルワークと社会開発の専門職は、私たちのパートナーと共に人々、コミュニティ、そして各種の社会運動と積極的に協力し、10年間のアジェンダである**包摂的な社会変容の共同構築**を前進させる。

私たちは、すべての国々で活発なメンバーを擁するグローバルな組織として、すべての人々の強みを称え、持続可能な開発をリードするために彼らの積極的な役割を促進することを認識し、取り組んでいく。私たちは、人々と環境のために繁栄するコミュニティと社会を共同設計し、共同構築するために協力することに努める。

すべての人々の声を聴き、特に疎外されがちな人々の積極的な参加を促進することは、ソーシャルワークと社会開発の専門職の核心であり、包括的な社会変容を共同設計し、共同構築するために不可欠である。

これには、国家的にもグローバルにも、すべての人々の普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能なウェルビーイングを促進するような、政府と政府が仕える人々との間の新しい社会的合意の形成が含まれる。

すべての人のための新しいプラットフォームと空間を開拓し創造するにあたり、ソーシャルワークと社会開発の役割は、新しい社会的合意の形成のために極めて重要である。グローバル・アジェンダ 2020-2030 は、こうした決意にもとづいている。

グローバル・アジェンダは、10年間の5つのテーマ（2年に1つのテーマ）で構成されている。ここでは、タスクフォースは2020年から2022年の第1のテーマ（柱）を提案する。

他の4つのテーマを決定するためのプロセスは継続される。

第1テーマ 2020-2022

「ウブントゥ:社会的連帯とグローバルなつながりを強化する」

解説

倫理原則にもとづき、ソーシャルワークと社会開発の実践者と教育者は、人とコミュニティとシステムを結び、持続可能なコミュニティを共同設計し、共同構築し、包摂的な社会変容を促進するという本質的な役割を担っている。

社会的連帯を強化し、グローバルなつながりを認識するための原則としてのウブントゥは、すべての人々と環境との間の責任を強調する、共有された持続可能な未来のための根幹ともいえる。それは、政府と政府が仕える人々との間の新しい社会的合意を形成する包摂的なプロセスを促進するための基礎を築く。新たな社会的合意は、各国、地域、世界のすべての人々のために、普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能なウェルビーイングを促進することを目的としている。

ウブントゥは、ネルソン・マンデラによって世界中に普及し、一般的には「我々が存在するから、私も存在する」という意味と解釈されている。すべての人々とその環境との相互のつながりというソーシャルワークと社会開発の視点に共鳴する言葉、概念、哲学である。ウブントゥはまた、地域・民族固有の知識と知恵を強調し、私たちは、テーマである「我々が存在するから、私も存在する」を推進するために、同義の言葉や概念をそれぞれの文化で語るようにすべての国々や人々を歓迎する。

注

1 「グローバル・アジェンダ」は、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW、アンナマリア・カンパニーニ会長）、国際社会福祉協議会（ICSW、エヴァ・ホルムバーグ＝ヘルストレーム会長）、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW、シルヴァナ・マルティネス会長）、の共同イニシアチブである。